

県議空白克服実現 「戦争法案」阻止、公約実現へ

福岡県議会議員 高瀬 菜穂子
福岡県議会議員 山口 りつ子

挙区に12氏を擁立、悲願の空白克服を実現し、2議席を獲得しました。北九州市小倉南区(定数3)で高瀬菜穂子、若松区(定数2)で山口律子が当選、県議会での複数議席の回復は、2003年県議選(4議席)以来です。

は101%、民主党81・8%、公明党88・5%で、議席も得票も伸ばしたのは共産党と自民党という結果でした。選挙結果からも「自共対決」の様相が確認できました。

「オール与党」議会の 「デタラメを告発」

2・県議選の論戦

福岡県議会の党派別当選者は共産党2(+2)、自民42(+1)、民主17(-3)、公明11(±0)、諸派・無所属14で、議席を伸ばしたのは共産党と自民党でした。民主党は3議席減らし、維新と社民は議席を獲得できませんでした。

政治論戦では「戦争立法・安倍暴走政治ストップ、くらしと平和をまもる県政への転換」を太い柱に据え、原発再稼働、雇用破壊、TPP、消費税増税、社会保障削減など、国政につながるなどの大問題でも、県議会の自公民「オール与党」が国の悪政の推進役となっている実態を告発し、「悪政の防波堤」としての党県議団の回復を訴えました。

1・選挙結果の概観

4月12日投票の福岡県議選(定数86)で、日本共産党は北九州・福岡の両政令市と久留米・大牟田両市の12選

得票では、共産党は93、639票(得票率7・27%)を獲得、前回2011年の55、548票(4・21%)から38、091票の増、1・69倍となりました。前回も今回も擁立した選挙区での対比では、わが党は得票で8、378票増、115%でした。自民党

また、有権者に大きな共感を広げた論戦のひとつが「共産党県議がいるといないとは大違い」という対比でし

無視の一方で、「オール与党」県政が毎年200億円以上の予算を巨大県営ダム開発に注ぎ込み、1500億円の

第二関門道路（下関・北九州道路）建設計画を推進するなど、県民不在の巨大大開発に明け暮れている実態も浮き彫りにしました。

【党県議団の値打ちを対置】

こうした「オール与党」議会のデータラメをただすには、「どうしても共産党が県議会に必要」と訴え、共感の声広がりました。議席があつたころの党県議団が、2兆円規模の浪費となる海上空港・「新福岡空港」建設を断念させたことや、県議1人100万円の海外視察予算を廃止させたこと、子ども医療費の無料化や少人数学級の拡充など、県民運動と結んで県民要求実現のためにたたかう議席の値打ちを全面的に対置しました。

3・躍進後の議会の変化

福岡県議会には、国民の常識からかけ離れた「悪しき慣習」が少なからず存在します。そのひとつが『4月30日問題』です。福岡では、県議の任期が始まる4月30日のわずか1日をもって、4月分（1ヶ月分）の議員報酬が支給されてきました。共産党は20年以上前から、この措置の廃止を求めてきました。この措置の廃止を求めてきました。大きな変化がありました。わが党の問い合わせに対し、議会事務局が「総務省と協

議した結果、4月分の議員報酬は日割り、即ち1日分の支給とする、政務活動費は5月分からの支給とする」と回答してきたのです。「共産党がいるとないとは大違い」が、さっそく実感できました。

「悪しき慣習」のもうひとつが、「ドント方式」による常任委員会などのポスト配分です。比例配分とも異なり、大会派に有利、小会派無視を制度化した悪弊ですが、ここでも変化がありました。自公民などの主要4会派が、希望する常任委員ポストを「先取り」する方式に変化はなかったものの、複数の保守系無所属県議と党県議団の協議がおこなわれ、『厚生労働環境常任委員会』（高瀬県議）及び『建築都市常任委員会』（山口県議）という重要ポストに、わが党が席を置くことになりました。オブザーバーではあるものの、会派代表者会議への出席も決定しました。党県議団の過去の歴史のなかでも比較的充実した「発言力」を得たと思えます。

4・公約実現に向けて

5月15日の臨時県議会では、JA（福岡県中央会）が提出した請願に基づき、T P P撤退も辞さずに行動するよう政府に求める意見書が全会一致で

採択されました。福岡県でもここ数年、T P P阻止や原発ゼロなどの課題で「一点共闘」が大きく広がってききましたが、その成果を実感できた瞬間でした。

いま、党県議団には、各界からの懇談要請、会合・集会への出席要請、対県交渉への同席要請、各種の相談などが、堰を切ったように寄せられています。

「絶対に教え子を戦場に送らない。そのために力をあわせたい」（教員）。「この4年間、県の大手（ゼネコン等）に対する建築指導がズサンで困っていた。共産党県議団の復活は、『待つてました』です」（建設労働者）。「非正規が蔓延して教育現場とは思えないほどみんな疲弊している。打開策を一緒に考えてほしい」（私学）。「もうすぐ梅雨。水害多発地帯なのに、河川整備どころか雑木の撤去すらおこなわれていない。命と財産を守ってください」（決壊歴のある河川脇の住民）。「国保も後期医療も介護も県の役割が絶大。子ども医療費の無料化拡充など負担軽減へ共同行動を」（医師）。

「党県議団が、これほどまでに待たれていたと思うと背筋が伸びる。渦巻く切実な県民要求実現へ、県民と県政

をつなぐ」（高瀬県議）——これが団全体の決意でもあります。

5・強く大きな党づくり

5月20日に開催した全県議員会議では、県議団をはじめ、躍進した県内各地の多くの議員団から、党の自力と選挙結果との相関関係が報告され、「強く大きな党づくり」への決意が語られました。「選挙に勝ち、党員・読者を増やし、財政力もつけ、党中枢の議員・専従の世代的継承をすすめる」——そんな好循環をつくり、来年7月の参院選勝利へ全力をつくす決意です。